

# 体験！伝統文化

其の四

平成 29 年 1 月 4 日発行



殿田小学校では、平成 27 年度から文部科学省「英語教育強化地域拠点事業」の指定を受け、研究主題「豊かなコミュニケーション力を有したグローバル人材の育成をめざした、児童相互の学び合いのある授業」の具現化に向けて、外国語活動（低・中学年）、英語科（高学年）の教育実践を積み重ねています。



一方、我が国の伝統文化への理解を深め、尊重することにも重点を置き、「文化を未来に伝える次世代育み事業」を活用して6年生が狂言を学んでいます。我が国の文化と伝統を尊重するとともに、諸外国の文化や伝統を理解、尊重し、思いやりの心を持って行動することができる児童の育成をめざしています。

## 狂言

狂言はせりふやしぐさを主として室町時代に行なわれるようになった劇で、せりふは昔の言葉のままで独特の調子があります。

狂言には、大名、大名に仕える家臣、山伏、農民、神、かみなり、鬼など様々な人物が登場し、それぞれが引き起こす失敗や間違いが楽しく愉快地に演じられています。



## 「文化を未来に伝える次世代育み事業」（学校・アート・出会いプロジェクト）

京都府では、ほんまもの文化・芸術を体感する機会を提供し、京都の文化・芸術の振興と次世代へ継承するため、「文化を未来に伝える次世代育み事業」（学校・アート・出会いプロジェクト）を実施しています。南丹教育局管内の小・中学校では、狂言のほかにも能楽や太鼓、陶芸、竹細工などの文化・芸能に関する体験的な取組を実施しています。

# 文化を学ぶ

6年生児童は「文化を未来に伝える次世代育み事業」から派遣された大蔵流狂言師 島田洋海先生から3回にわたり指導を受けました。6年生の国語で学習する「柿山伏」を実際に演じていただき、狂言の世界や歴史について教わりました。



その後、姿勢や歩き方、言葉遣い、声の出し方などについて、丁寧な指導を受けました。普段の生活で使い慣れないことばかりで戸惑いもありましたが、回を重ねるごとに子どもたちの演技には狂言らしさを感じられるようになりました。

島田先生からは、「腰を落とした狂言の姿勢は、剣道や柔道などの身体の動きと通じるところがある。」という説明があり、子どもたちは真剣に耳を傾けていました。

# 学習発表会

平成28年12月3日(土)、殿田小学校学習発表会の最後に、6年生が狂言「柿山伏」を演じました。自らが制作した袴などの衣装を着て、大きな声で堂々と演じる姿からは、しっかりと練習を重ねてきた成果がうかがえました。

最後には、6年生全員で「失敗したり悪いことをしたことを責めるのではなく、人間の弱さを理解し、皆が広い心をもって気遣いながら仲良く楽しく生きていこう。」と全校に呼びかけました。

児童や保護者からは大きな大きな拍手が起こっていました。



今まで、何度も劇はやりました。でも狂言は、歩き方・しゃべり方・動き方など、何から何までちがっていて、一番最初に見たとき、「かっこいい。あんな演技をしてみたい。」という気持ちが芽生えました。その気持ちを最初の練習から、最後の発表まで持ち続けることができたので、「恥ずかしい」とか「うまくいかないなあ」などの気持ちは一回も考えることなくすることができました。

南丹教育局管内の小・中学校における伝統文化に関する取組を、「体験！伝統文化」として南丹教育局ホームページに掲載しています。

南丹教育局ホームページ  
<http://www.kyoto-be.ne.jp/nantan-k/cms/>

南丹教育局

検索

